



「ゼロカーボンシティ」を目指すことを表明 ～2050年温室効果ガス排出量ゼロを目指します～

近年、世界的に地球温暖化が原因とみられる異常気象による猛暑や豪雨などの災害が増加しており、本市においてもそうした災害が発生しています。このような災害から人々の生命や財産、社会インフラ、そして自然や生態系を守るために不可欠となる地球温暖化対策は、国、地方公共団体、事業者、そして住民といった全ての主体が参加・連携して取り組むことが必要です。昨今、地方公共団体には、自ら率先した取組を行うことで、地域の住民及び事業者の模範となることが望まれています。

本市では、来年度から令和12年度までを計画期間とする第3次大府市環境基本計画において、2050年度を目途に温室効果ガス排出量を実質ゼロにする目標を掲げ、基本方針の一つである環境に配慮した社会づくりの「脱炭素社会づくり」、「循環型社会づくり」及び「自然共生社会づくり」を活かした地球温暖化対策により、「ゼロカーボンシティ」の実現に向けた取組を着実に進めていきます。

■ゼロカーボンシティ実現に向けたビジョン

「ゼロカーボンシティ」実現のためのビジョンについて、2050年までの30年間の前期（2021～2030）、中期（2031～2040）及び後期（2041～2050）の各10年間とし、前期は機運の醸成及び地域協働・人づくり、中期はモデル事業の推進及び仕組みづくり、後期はパートナーシップによる事業を実践し、ゼロカーボンシティの実現をめざします。

なお、前期については、第3次大府市環境基本計画（計画期間：2021～2030）に基づき、取組を推進します。

■温室効果ガス排出量抑制に関する施策の内容

第3次大府市環境基本計画の基本施策である「脱炭素社会づくり」、「循環型社会づくり」及び「自然共生社会づくり」を推進します。「脱炭素社会づくり」では、省エネルギー・省資源の推進及び再生可能エネルギーの利用促進、「循環型社会づくり」では、ごみ減量化や脱プラスチックの推進による循環型社会の形成及び環境に配慮した消費行動・事業活動の促進、「自然共生社会づくり」では、水と緑の保全などの各事業・取組を実施します。

■参考資料

- ・第3次大府市環境基本計画（概要版）

No. 3

1月年頭記者会見資料
令和3年1月7日



【問い合わせ先】

大府市 環境課

担 当：植木 孝（ウエキ タカシ）

電 話：0562-45-6223

F A X：0562-47-9996

E-mail：kankyo@city.obu.lg.jp

第3次 大府市環境基本計画 概要版

エコ・フレンドリープラン

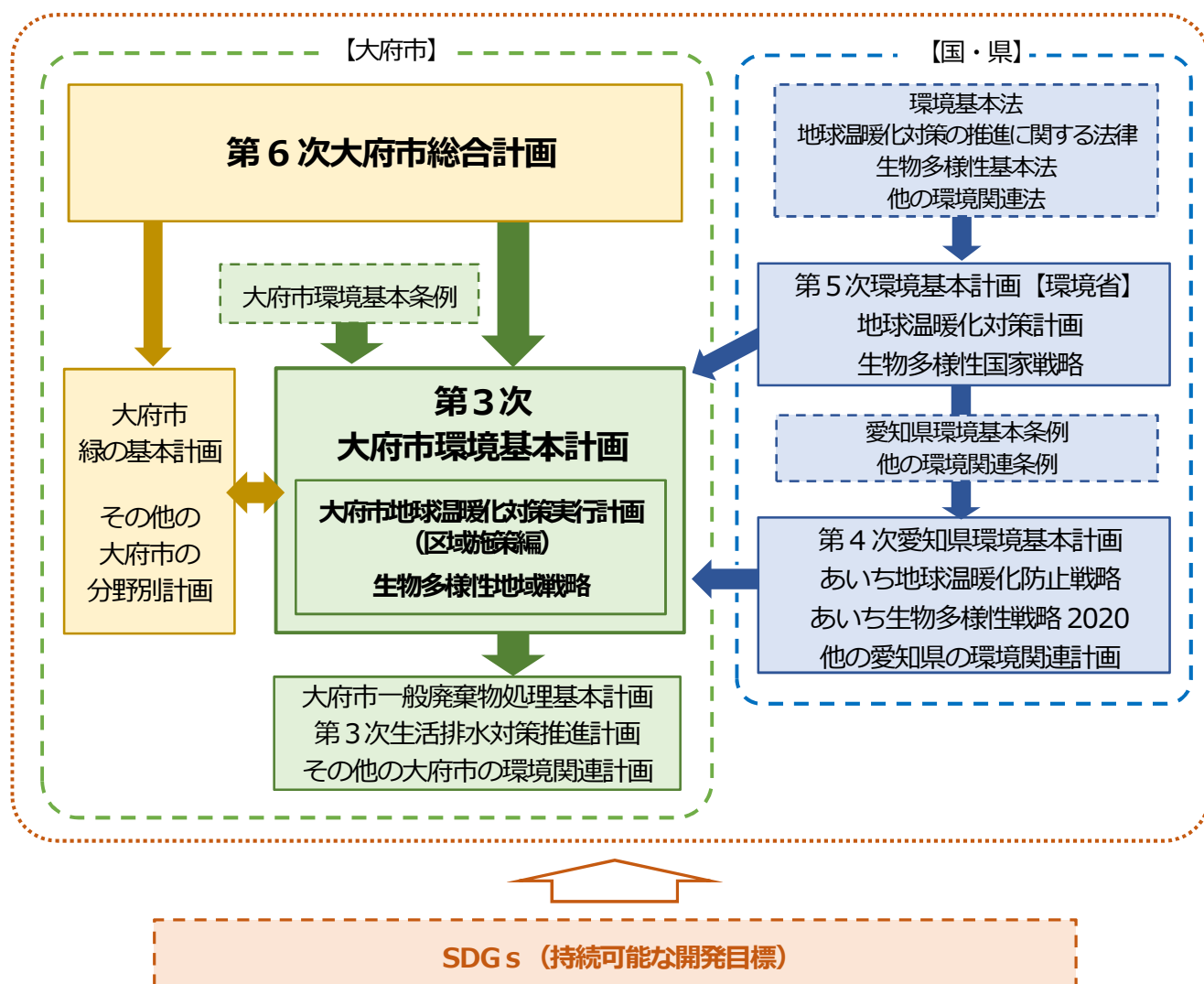
～人と自然が共生する みらい輝く健康都市～

1 計画策定の背景と目的

近年、国際社会においては温室効果ガスによる地球温暖化や新たな環境問題としてマイクロプラスチックによる海洋汚染などが顕在化し、地球環境の持続可能性が懸念されています。本市においても、地域の環境問題だけではなく、地球環境にどのように貢献していくかが課題となっています。

このような背景のもと、本市では、良好な環境を保全し、創造していくために長期的な目標及び施策の方針、さらに市民・事業者・市の役割などを定めた本計画を策定し、将来世代へ健康で快適な環境を継承するとともに、環境負荷の少ない人と自然とが共生できる社会の構築の実現をめざします。

2 計画の位置付け及び計画期間



(1) 計画の位置付け

本計画は、令和2年3月に策定された「第6次大府市総合計画」の環境分野の分野別計画としての役割を担っており、本市のその他の分野別計画と整合を図っています。また、本市の環境行政のマスタープランとして、「大府市地球温暖化対策実行計画」及び「生物多様性地域戦略」を含めて策定する総合的な計画です。本計画の策定にあたっては、国の「第5次環境基本計画」、県の「第4次愛知県環境基本計画」をはじめとした、環境関連計画の内容も踏まえて策定しています。

さらに、国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)への貢献やゼロカーボンシティの実現に向けた取組を推進する計画としています。

(2) 計画期間

本計画の期間は、令和3年度から令和12年度までの10年間とします。なお、本計画は毎年度実施状況をチェックするとともに、本市の環境状況や社会経済状況などにより必要が生じた場合は、計画の期間中に見直しを行います。

3 環境将来都市像及び基本理念

(1) 環境将来都市像

《第3次大府市環境基本計画の環境将来都市像》

人と自然が共生する みらい輝く健康都市

～安心して暮らし続けることができる まちを実現しよう 我がまち大府で～

未来に向けて、市民、事業者及び市などの様々な主体が協働で取り組むことにより、これからも輝き続けることができる健康都市を実現しようという考えを環境将来都市像に表現しています。

(2) 基本理念

《環境将来都市像を実現するための基本理念》

**一人ひとりが自分のこととして環境を意識し、
学び、気づき、そして行動する市民を育む**

身近な環境から地球規模の環境まで、市民一人ひとりが、自分ごととして意識するとともに、環境について学校・家庭・地域・事業所及び生活の中で学んだり、身近な環境の変化などに気づくことにより、環境を守るための行動を日常的に行う市民を育むことが大切と考え、基本理念として表現しています。

4 ゼロカーボンシティの実現

近年、世界的に地球温暖化が原因とみられる異常気象による災害が増加しています。サステイナブル健康都市を将来都市像に掲げてSDGsに取り組む本市においても、国際社会の一員として地球規模の課題に寄与し、「令和32年温室効果ガス排出量実質ゼロ」に向けて、本計画を通じて市民や事業者と共にゼロカーボンシティの実現に向けた取り組みを着実に進めていきます。

5 基本方針・基本施策

多くの市民が望んでいる安心・安全・快適な生活環境づくりには、安定した幹(骨格)が必要です。また、その幹を育てるためには、主体的に活動する人や地域協働による連携の根(基盤)を張り巡らせることが重要です。

本計画を推進することで広く根を張り巡らせ、太くて丈夫な幹を育てることにより、『循環型社会』、『脱炭素社会』、『自然共生社会』といった本市の環境を守る枝葉(成果)が育まれ、持続可能な環境将来都市像を実現します。本計画の環境将来都市像を実現するための基本方針及び基本施策を以下のように設定します。



《施策体系：基本方針>基本施策>単位施策》

《基本方針1》

持続可能なくらしづくり

【基本施策①】
安心・安全・快適な
生活環境づくり

単位施策
①環境基盤の醸成
②マナー
・モラルの向上

《基本方針2》

学びあうみらいの人づくり

【基本施策①】
地域協働
・人づくり

単位施策
①環境学習
・環境教育の推進
②連携・協働による
環境保全活動の推進

《基本方針3》 環境に配慮した社会づくり

【基本施策①】
循環型社会づくり

【単位施策】
①廃棄物の適正処理
②連携・協働による
循環型社会の推進

【基本施策②】
脱炭素社会づくり

【単位施策】
①環境にやさしい
ライフスタイルの促進
②環境に配慮した
事業活動の促進
③環境負荷の少ない
まちづくりの推進

【基本施策③】
自然共生社会づくり

【単位施策】
①生物多様性への理解促進
②多様な生態系への保全
③水と緑の
ネットワークづくり

6 地球温暖化対策の推進「大府市地球温暖化対策実行計画【区域施策編】」

(1) 計画の位置付けと温室効果ガス排出量の削減目標

地球温暖化対策の推進に関する法律第 21 条に規定される地方公共団体実行計画として「大府市地球温暖化対策実行計画」を位置付けます。

温室効果ガスの排出量削減の目標年度は本計画の期間とあわせて令和 12 年度とします。国の目標は、平成 25 年度を基準として、令和 12 年度に 26%削減、令和 32 年度には実質ゼロにすることとしています。本市においても、国の目標を踏まえるとともに「ゼロカーボンシティ」の実現を見据えた目標を設定します。

また、部門別の削減目標についても国の計画に基づく削減量の目安を踏まえて設定します。

いずれの部門においても削減が必要になりますが、特に、業務その他部門、家庭部門において大きな削減が必要になります。

<大府市における温室効果ガス削減の目標>

	平成 25 年度 【実績値】	平成 29 年度 【実績値】	令和 12 年度 【目標値】	令和 32 年度 【長期目標】
総排出量	1,168 千 t-CO ₂	1,216 千 t-CO ₂	864 千 t-CO ₂	排出実質ゼロ※
平成 25 年度比	—	+4.1%	△26.0%	
平成 29 年度比		—	△28.9%	

※排出実質ゼロ：CO₂などの温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と、森林等の吸収源による除去量との間の均衡を達成すること

(2) 温室効果ガス排出抑制等に関する対策・施策

単位施策	市民・事業者・市が協働で進める主な取組
1 温室効果ガスの排出を減らす	①省エネルギー・省資源の推進 ⇒脱炭素社会づくり
	②再生可能エネルギーの利用促進 ⇒脱炭素社会づくり
	③環境にやさしい交通利用の促進 ⇒脱炭素社会づくり
2 ゼロカーボンに向けたまちや仕組みをつくる	④徒歩圏内で生活できるまちづくりの推進 ⇒脱炭素社会づくり
	⑤環境に配慮した消費行動・事業活動の促進 ⇒脱炭素社会づくり
	⑥循環型社会の形成 ⇒循環型社会づくり
3 二酸化炭素の吸収源を確保する	⑦水と緑の保全 ⇒自然共生社会づくり
4 気候の変動に適応する	⑧気候変動の影響被害の防止

7 計画の推進体制

市民や事業者、市の取組について、その進捗状況や成果を定期的に点検・評価して、その結果をさらにその次の取組へとつなげていくことが必要です。そこで、本計画では、大府市の環境マネジメントシステムを活用して、「Plan(計画)」「Do(実践)」「Check(点検・評価)」「Action(見直し)」という PDCA サイクルに基づき進行管理を進めるとともに、大府市環境審議会に適宜報告しながら継続的改善を図っていくこととします。

大府市のゼロカーボンシティ実現に向けて

参考資料(R3.1.7)

2050年

ゼロカーボンシティの実現
【目標：温室効果ガス排出量実質ゼロ】

国(環境省)
の推進

2030年

大府市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)
【目標：温室効果ガス排出量26%削減(2013年度比)】
(※第3次大府市環境基本計画に包含)

持続可能に発展

地球温暖化対策推進法に
基づく推進

各施策の達成

**第3次大府市
環境基本計画の推進**

<ゼロカーボンシティ実現に寄与する施策内容>

①温室効果ガスの排出を減らす

- ・省エネルギー・省資源の推進
- ・再生可能エネルギーの利用促進
- ・環境にやさしい交通利用の促進

脱炭素社会づくり

②ゼロカーボンに向けたまちや仕組みをつくる

- ・徒歩圏内で生活できるまちづくり
- ・環境に配慮した消費行動・事業活動の促進
- ・循環型社会の形成(ごみ減量化及び脱プラスチックの推進など)

循環型社会づくり

③二酸化炭素の吸収源を確保する

- ・水と緑の保全

自然共生社会づくり

④ 気候の変動に適応する

- ・熱中症などによる健康被害の防止
- ・局地的豪雨などによる災害の防止
- ・生態系や農作物などへの被害の抑制

6次総と連携

様々な活動で活躍

様々な活動で活躍

様々な活動で活躍

◎クリーン・アップ・ザ・ワールド in 大府などの『環境パートナーシップ活動』の推進

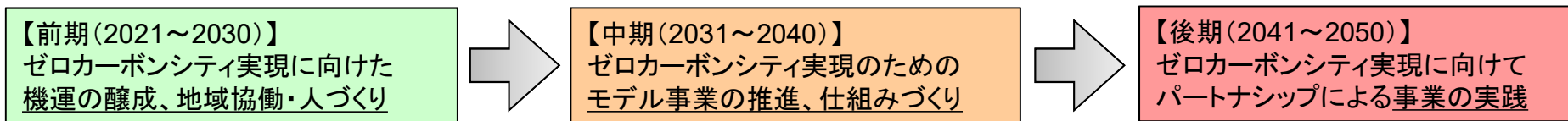
地域協働・人づくり

⇒ 第3次大府市環境基本計画を推進することで、総合的にゼロカーボンシティを目指す

ゼロカーボンシティ表明と実現に向けたビジョン

ゼロカーボンシティ実現に向けたビジョン

「ゼロカーボンシティ」実現のためのビジョンについて、2050年までの30年間を前期(2021～2030)、中期(2031～2040)及び後期(2041～2050)の各10年間とし、前期は機運の醸成及び地域協働・人づくり、中期はモデル事業の推進及び仕組みづくり、後期はパートナーシップによる事業を実践し、ゼロカーボンシティの実現をめざします。なお、前期については、第3次大府市環境基本計画(計画期間:2021～2030)に基づき、取組を推進します。



温室効果ガス排出量抑制に関する施策の内容

第3次大府市環境基本計画の基本施策である「脱炭素社会づくり」、「循環型社会づくり」及び「自然共生社会づくり」を推進します。「脱炭素社会づくり」では、省エネルギー・省資源の推進及び再生可能エネルギーの利用促進、「循環型社会づくり」では、ごみ減量化や脱プラスチックの推進による循環型社会の形成及び環境に配慮した消費行動・事業活動の促進、「自然共生社会づくり」では、水と緑の保全などの各事業・取組を実施します。

大府市における温室効果ガス削減の目標				
	平成25年度 【実績値】	平成29年度 【実績値】	令和12年度 【目標値】	令和32年度 【長期目標】
総排出量	1,168千t-CO ₂	1,216千t-CO ₂	864千t-CO ₂	排出実質ゼロ※
平成25年度比	—	+4.1%	△26.0%	
平成29年度比	—	—	△28.9%	

※排出実質ゼロ:CO₂などの温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と、森林等の吸収源による除去量との間の均衡を達成すること